

## 冬の海辺

豚ならば豚らしく  
鳥ならば鳥らしく  
人ならば人らしく  
役人ならば役人らしく  
芸術家ならば芸術家らしく  
僕ならば僕らしく  
君ならば君らしく・・・

そんなこんなで波打際に  
僕は何時までしゃがんでいるのやら

それほどに

波の舌先に光るダイヤの粒は美しく、<sup>かる</sup>軽く  
重ね重なる潮騒は懐かしく  
水平線はやっぱり水平なだけで  
だから僕は立ち去りもせず

それほどに

遮るもののない風は僕を震わせ  
足の指をなめる塩水はつめたく  
水平線の向こうには辿り着く岸辺も見えなくて  
だから僕は服を脱ぎ捨ててもせず

ふと見れば

波の中から来たらしい  
横這いする遠国の使者

僕はそれに砂を投げながら  
啄木の歌を思い出しながら  
ぼそりぼそりと呟く・・・

豚よりも豚らしく  
人よりも人らしく  
僕よりも僕らしく  
君よりも君らしく